ToHeart2
For Adult Only
Somakin
Matumoto Drill Ladoratory

「ううー、やっぱ、こんなのって絶対変態さんだよお」
　愛佳は机の上でぶちぶち。それでもやってくれるあたり、
まじめというか律儀というか。
「いいじゃないか。俺だってやっぱり恥ずかしいんだぜ」
「だってたかあきくん１カ所じゃない。あたしなんか……」
　１カ所？　ああ。
　俺たちはかつての秘密基地で服を脱いでいく。
　……なんで俺たち、こんなことしているんだろう？

「あたし、もし誰かに見られたらぜったい死んじゃうよー。
うー、なんでこんなことに」
「文句言わない。自分で決めたことだろ」
「ううー。あうあう。うー」
　ぶつぶつと、恥ずかしそうに、窓の外を気にしながらも
それでも制服をたくし上げ、俺に見えるように肌を見せた。

「愛佳は……ほんとうに綺麗な肌してるね」
「や、あ、バカ！　またそんなこと言う！
　恥ずかしくて死にそうって言ってるのに！
　意識しないようにしてるのにぃ」
「ごめん。……よし、俺も脱ぐからおあいこだ」
「え、ええー！」

ドキ
たかあきくん
こんな事
みたいなんて
女性さんだよね…
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ちゅぱ…

俺たちは、お互いの全てを見せ合い、分かり合うためにこうしている。
俺も愛佳の異性には人一倍興味があるのに、今まで遠ざけてきた。
最初は愛佳も俺も戸惑い、悩み、別れ話もあった。
キスから、愛撫。愛撫から、お互いの身体へと進展していくなかで、愛佳は泣いた。
「あたし、いま幸せすぎなのよ。郁乃も元気になって、たかあきくんが近くにいて。
だからきっと、こんな幸せいつまでも続かない。
だから別れましょ。ううん。最初からつきあってないってことで」
ことでじゃない。俺は怒り、愛佳も怒り、しまいには二人で泣いて抱き合った。
俺たちの自縄自縛は、意外と根が深かったのかもしれない。

「あ、たかあきくん、いつもより、大きいみたいな。
もしかして……こういう場所でするのが、すごく好き？」
「ばっか。まじまじ見るな」
「だってぇ」
「とにかく！　今日はここでお互い見せ合う！
それが決まりだろ。だいたい自分で出したんだろ」
「あたしはサイコロ運がないのにい」
「六が二回出たらここ！　これは決まりなの」
「うううううう」
お互いが肌を見せ合うと、さすがにドキドキしてくる。愛佳が照れないように俺は努めて冷静を装った。
「やっぱり、女の子は恥ずかしいところが何カ所もあってずるいよぉ」
するり、とブラがはずされる。夕日が愛佳の形の良い胸に陰影を落とした。
「なんか、ちょっと大きくなった？」
「あ、ややややややや！　うう、すこし……」
俺は視線を外す。本当はこのまま愛佳を押し倒したい。
思うさま肌を合わせたい。でもそれはしない。できない。それが俺たちのルール。

「これは自分たちを鍛える修行でもあるんだし、二人で頑張ろうって誓っただろ」
愛佳は根負けしたように肩を落とすと、スカートをまくり上げた。
俺は下半身に血が集中するのを何とかとどめ、舌を唾で濡らす。喉がからからだ。
愛佳の秘密の場所は夕日に照らされて清楚に光っていた。
「じゃあ……するね。あんまり、見ないでね。あ、見てもらわないとダメなんだっけ。
うう、恥ずかしいよぉ」
「大丈夫だよ。俺が、ええと、愛佳の全部を見ててあげるから」
「う、うん……あれ？　さっき委員長って言わなかった？」
「いいから！」
愛佳は恨めしそうな上目で俺をにらむと、そっと指をスカートの下に伸ばした。

あぁぁぁ

はぁ

あ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ああ

指とまらないよぉ

たかあきくんが

みてる

のに

ちゅぷ!!!

ちゅぷ

ちゅぷ

ちゅぷ

だめ

ちゅぷ

ちゅぷ

みちゃ

だめぇぇぇ

ぐちゅぐちゅ
ぬぷぬぷ
ぬぷぬぷ
ぬぷぬぷ

あ～ったったあきま！
いまちゃ～
すーすー
あぁぁっ
ひろげないでぇぇっ
ちゅぱい♥
うあっ指っ
おしりにいいっ
ぬぽぬぽ
ぬぽぬぽ
ぬぽぬぽ
いひいっ
はげしすぎるよぉ

はー、
はー、
ビクッビクッ
たかあきま…
キミ…
キミ…あ……
はー、
はひー、
ぷしゅー

ドンッ
ドンッ
ドンッ
あ
ひあぁぁ♥
もぅ、
おわりって、
思ったのにぃぃ！
あぁぁぁ♥

たっ、たかあきくん…

ドンッ

ドンッ

ドンッ

そんなっ

かきまわしたらだめぇ~

ドンッ

ドンッ

ドンッ

ぁぁぁぁっ
ぬぷぬぷ
ぬぷぬぷ

ぎゅっ
ぎゅっ
ぎゅっ

ゴル ゴル
ぱっ…
ロー…
ぎゅ
ぎゅ
ぎゅ

「は……ふ、うぅ」
愛佳は汗で光る身体を震わせた。
日はとっくに暮れていた。
窓からはいる星明かりに愛佳白い尻が浮かんで見える。
その間から俺のものが滴るのがかすかに見えた。
「あ、あ、やっ……」
「？　どうしたの？」
「たれて……や、や、なんでも…ないよぉ。もう、たかあきくん信じらんない。中に…出す……だした…あううう……」
愛佳が股間の感覚に顔を伏せる。

「もう、赤ちゃん出来たらどうするのぉ」
俺はティッシュを股間に当てる愛佳を抱き寄せた。
「好きだよ、愛佳」
「もう…」
ふくれる。

「たかあきくんの赤ちゃん…」

「それもいいかなあ」
つぶやく愛佳。

編集後記

絵・ながの～ん

相変わらず時間がなくて参りました。
言ってることが前回と同じです。
ほんとは妹と由真も描くはずでした。残念。
つぎはもっとがんばります。次はる一？

ここまでお付き合いいただき
ありがとうございました。

お手伝いしてくれた方々コメント

・けきょさん　（裏表紙）
やはりつかまりません。
正確には捕まりました。だからつかまりません。
容疑はきっと幼女誘拐だ。惜しい人を亡くした。

・なすさん（雑務）
お仕事に行ってます。珍しい。

松本ドリル研究所

chiba.cool.ne.jp/doriken/top.htm
doriken2@mail.goo.ne.jp

けきょけきょほけきょ
（裏表紙・けきょHP）

http://www.oct.zaq.ne.jp/afafx802/

Matumoto Drill Ladoratory
けきょ♥